

ふりがな たけうち かん

氏 名 竹内 幹

1. 学歴

1998 年 3 月 一橋大学経済学部卒業

2000 年 3 月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了

2007 年 8 月 ミシガン大学経済学部博士号取得 (Ph. D. in Economics)

2. 職歴・研究歴

2007 年 9 月 - 2008 年 3 月 カリフォルニア工科大学人文社会科学部研究員

2008 年 4 月 - 一橋大学大学院経済学研究科専任講師

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

基礎ミクロ経済学

(b) 大学院

公共経済学

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学生の皆さんには、講義を通じて「教養としての経済学」を身につけてほしいと考えています。経済学は明日の生活に役立つものではありません。すぐに景気予測ができるようになるわけではなく、卒業生が全員、エコノミストになるわけでもないでしょう。しかし皆さんが将来どんな職業に就くとしても、経済学の考え方の枠組みは思考の助けになるはずです。

実は私は、聴衆の前に立って講義をするのが大好きです。留学中にはアメリカ人学生に対して 300 回以上、経済数学や日本語文法を講義してきました。その際、学生が自然と講義に参加したくなるよう、身近な実例を教材に取り入れるよう心がけました。本学の講義でも、学生となるべく多くのインターアクションができるよう講義スタイルを工夫するつもりです。

私のゼミでは、学生 1 人 1 人が興味を持っている社会問題について、経済学的な思考の枠組みを使って説得的な主張を展開できるようにすることを目指します。自分とは違う意見を持つ人を説得するため、どんな材料を集めたらよいか。マスメディアや官公庁が公開している資料や学術論文など、膨大な資料の中から必要なものを探し出す方法が身につくようにします。また、それらを上手く組み合わせで説得力のあるプレゼンテーションをするための、編集力、文章構成力、話し方といったコミュニケーション能力を磨くことを目標にします。

講義やゼミに関する考え方について、もっと詳しく知りたい方は私の個人 HP にあります「教育理念(日本語と英語があります)」をご参照ください。

4. 主な研究テーマ

専門は、実験経済学、行動経済学。主に、組み合わせオークションや時間選好の研究に取り組んでいます。

(1) 時間選好に関する経済実験

人は、将来得られる大きな利得よりも、少ない利得を現在得ることを好む傾向があります。時間選好 (time preference) とは、現在と未来のトレードオフに直面する個人・企業の意味決定にかかわる選好のことを指します。近年、経済学ではこの時間選好に関する研究 (貯蓄・投資行動、クレジットカード市場、退職や医療行為の意味決定、依存症の治療など) が進んできました。

私は、利得発生が遅延を現在時点でのリスクに置換する経済実験を行い、リスクと遅延の正の相関を確認しました。また、新しい発見として、i) 逆 S 字型の時間割引関数、ii) 瞬時効用を $u(x)=x$ とおくことで生ずる推定バイアスを示しています。これらを踏まえ、リスク選好と時間選好の両方が同時に働く意思決定をテーマに研究を続けています。具体的には、実験による基礎的研究と、これをもとにした投資・資産形成、結婚市場におけるサーチ(結婚相手の探索)に関する実験・行動分析に取り組んでいます。

(2) 組み合わせオークション

組み合わせオークションとは、複数の財が同時に競りにかけられる競売のことで、買い手は複数の財を組み合わせでパッケージを作り、入札します。ひとつの財を競り落とすだけのオークションに関しては、すでに確立された理論があり、実験研究の蓄積も豊富にあります。しかし組み合わせオークションについては、理論的研究が今、まさに進行しているところです。また、実験を重ねることで理論の形を探っている段階です。

組み合わせオークションに関しては様々なメカニズムが提案されていますが、私は、実験によって各種メカニズムの精度を検証しています。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

Essays on Time Preference and Combinatorial Auctions, Doctoral Dissertation, University of Michigan, 2007.

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

"Multi-unit Auctions with Package Biddings: An Experimental Comparison of iBEA and Vickrey"

第 8 回実験経済学コンファレンス, 大阪大学, 2004。

Economic Science Association, アリゾナ州, 2004。

IFREE-実験経済学ワークショップ, ジョージメイソン大学(米), 2004。

Mannheim Empirical Research Summer School (MERSS), マンハイム大学(独), 2004。

Midwest Economics Association, ミネソタ州, 2005。

"Shake It Up Baby: Scheduling with Package Auctions"

エルサレム経済理論サマースクール, ヘブライ大学(イスラエル), 2005。

Institute for Operations Research and the Management Sciences, ペンシルバニア州, 2006。

Economic Science Association, アリゾナ州, 2006。

"The Cumulative Effect of Inequality: A Computational Study of Conflict Models"

Academy of Economics and Finance, テキサス州, 2006。

「米国の被験者保護手続き(IRB)について」

実験社会科学—実験が切り開く 21 世紀の社会科学, 北海道, 2007。

"When Does the Future Really Start: Non-monotonic Time Preference"

日本経済学会, 2007。

Economic Science Association, アリゾナ州, 2007。

カリフォルニア工科大学セミナー, 2007。

Economic Science Association, 上海交通大学, 2007。

Institute for Operations Research and the Management Sciences, 米国プエルトリコ, 2007。

フランス経済学会「行動経済学と実験経済学」, リヨン(仏), 2007。

Economic Science Association, 大阪, 2007。

Midwest Economics Association, ミネソタ州, 2007。

アムステルダム大学(オランダ)セミナー, 2008。

"Eye-tracking Analysis of Bidding Behavior in Combinatorial Auctions"

信州大学, 岐阜聖徳学園大学, 大阪大学, 香港科学技術大学, 2008。

Economic Science Association, アリゾナ州, 2008。

Economic Science Association, カリフォルニア工科大学, 2008。

C. 受賞

Outstanding GSI Award, University of Michigan (2000 人以上の講師のなかから優秀な 20 名に与えられる最優秀講師賞), 2006 年 3 月。

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

文京区コミュニティバス(B-ぐる)研究会副会長(2008 年 4 月 - 2009 年 3 月)

9. 一般的言論活動

「連載: はじめての実験経済学」『日経ビジネスアソシエ』, 2009 年 1 月より。

「特集 実験経済学がわかる 教室実験をやってみよう!: ゲーム理論への誘い」『経済セミナー』, 2008 年 10 月号, 20-24 頁。

「特集 ニッポンの最先端は、ここにあります。”実験経済学”が経済学を塗り替える」『GQ JAPAN』, 2008 年 10 月号, 56 頁。

「行動経済学の最先端を切り開くコリン・カメレール教授に聞く(インタビュー記事)」『日経ビジネスアソシエ』, 2008 年 7 月 15 日号, 20-21 頁。(<http://business.nikkeibp.co.jp/article/nba/20080710/165052/>)。

「リターンと機会費用で考える」『日経ビジネスアソシエ』, 2008 年 6 月 3 日号, 35 頁。

「マイケル・セッションズ: 市長は 18 歳・公約は“希望”」『日経ビジネスアソシエ』, 2006 年 1 月 3 日号, 108-110 頁。

「CSR(企業の社会的責任)と人権問題—米国のコカコーラ不買運動」『アムネスティ・インターナショナル・ジャパン・ニュースレター』, 2006 年 5 月号, 377 号, 4-5 頁(治部れんげとの共著)。